

**JR福知山線脱線事故の真相を究明！課題検討会が報告書を公表！**

**JR西日本の「企業風土」に問題あり！**

**これって、JR東海も同じじゃないですか!?**

JR福知山線脱線事故から6年目となる4月25日、遺族とJR西日本の合同で事故の真相を究明する「課題検討会」が報告書を公表しました。

課題検討会は、平成19年6月の事故調査委員会が公表した事故調査報告書は真相解明にはほど遠いとし、遺族の要望で平成21年12月にJR西日本の責任問題を追及しない条件ではじまりました。

会合は、遺族らでつくる「4・25ネットワーク」のメンバーとJR西日本の幹部社員らが16回、延べ約50時間にわたり意見交換を重ね、日勤教育や運行ダイヤなど、5分野の疑問点や問題点を整理・検証した上で、脱線事故に関するJR西日本の組織的・構造的問題をまとめました。

報告書は、共通の結論にはたどりつかず、両論を併記する形式での内容になったものの、脱線事故が起きた要因を分析し、事故の背景に「安全確保のために信賞必罰が大きな抑止力になる」「現場社員の指導育成にサポートが十分でなかった」などの企業風土に問題があったと結論づけました。

遺族側が、JR西日本の構造的な問題点として、「安全運行の組織的認識の希薄化」や「現場任せの信賞必罰・ものいえぬ社内風土」などがあったと指摘したのに対して、JR西日本は「安全方針を具体化する企業風土作りに至らなかったこと」や「運営体力の脆弱さが安全対策のレベルを停滞させたこと」などに問題があったことを認めました。

## **JR東海の安全に対する企業風土も問題あり！**

JR東海はこれまで、事故に対して会社として責任を認めたことはありません。事故責任は、当事者である社員へ全て転嫁し、処分や配転による戒めで再発防止を図ろうとする姿勢です。つまりJR西日本が指摘された「現場任せの信賞必罰・ものいえぬ社内風土」そのものです。これではJR福知山線脱線事故を教訓化することなど夢のまた夢です。

私たちは、JR福知山線脱線事故から学び、JR東海の企業風土を変えていくため職場から奮闘します。

**JR西日本は危険認識の甘く認める！**